

1 袖ヶ浦市の概要



1. 地勢及び位置

袖ヶ浦市は、千葉県の東京湾岸の中央部に位置し、東は市原市、南・西は木更津市に接しており、市域の東京湾側は首都圏整備法の近郊整備地帯となっています。総面積は94.93km²、周囲は84.5kmで、東西約14.0km、南北約13.5kmに広がっています。

北西部から東部にかけては、清澄山系に連なる標高60mの洪積層の高台を形成する平坦な丘陵地帯で畑地が開け、南西部から南部にかけては、沖積層の肥沃な水田地帯が開けています。

河川は、清澄山系に源を発する小櫃川が東西に流れ、これに注ぐ槍水川、松川、武田川のほか、東京湾に注ぐ浮戸川、蔵波川、久保田川等があります。

〈市役所の位置〉

●袖ヶ浦市坂戸市場1番地1

- ・東経139度57分27秒
- ・北緯 35度25分36秒

2. 沿革

袖ヶ浦市は、かつて東京湾における海苔養殖を主体とした漁業の盛んな地域でしたが、千葉県の京葉工業地帯造成計画によって京葉臨海地域の本格的な開発が推進され、その一環として本市の海面の埋立てが昭和41年（1966年）から始まり、京葉工業地帯の一翼を担う装置型産業の進出が始まりました。その後昭和46年（1971年）には、袖ヶ浦町と平川町とが合併し、農業と工業が調和した県内有数の産業都市として発展してきました。

20世紀後半、平成3年（1991年）4月に県下29番目の市として袖ヶ浦市が誕生し、その後、東京湾アクアライン、館山自動車道、首都圏中央連絡自動車道などの広域交通ネットワークが整備され、現在に至っています。



■ 平岡地区上空から臨海部を臨む

3. 市域の変遷

袖ヶ浦市は、昭和30年（1955年）3月に昭和町・長浦村及び根形村（一部除く）が合併して発足した旧袖ヶ浦町と、同年2月に平岡村・中川村が合併して発足した平川町（同年3月根形村の一部と富岡村の一部が合併）とが昭和40年（1965年）の市町村の合併の特例に関する法律により合併し、昭和46年（1971年）11月に袖ヶ浦町として誕生しました。

海岸部では、京葉工業地帯の造成による公有水面の埋立地の編入がされるとともに、隣接市との境界変更等を行いながら現在に至っています。

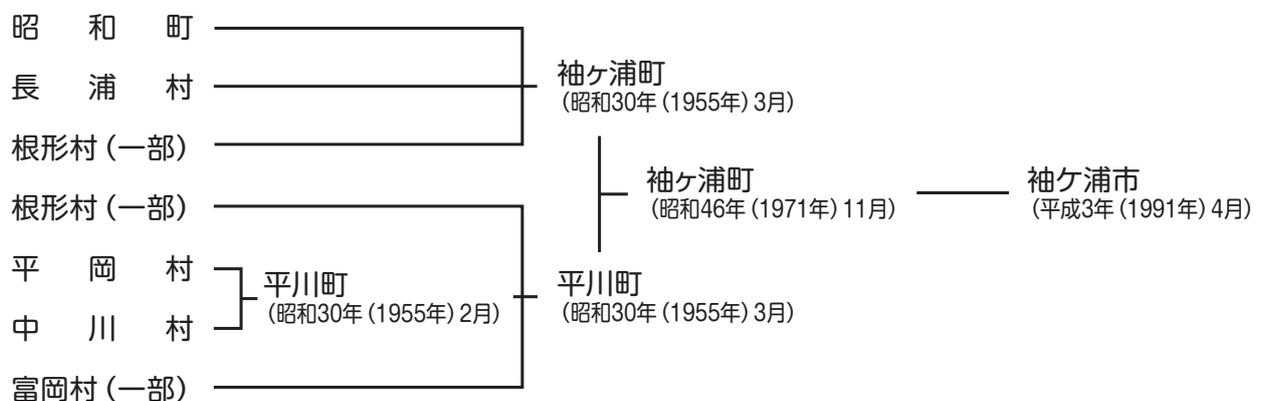
●袖ヶ浦市域の変遷

(単位：km²)

変更年月日	変更理由	変更面積	総面積
昭和46年(1971年) 11月 3日	袖ヶ浦町発足(平川町合併)	—	87.78
昭和47年(1972年) 3月 1日	木更津市との境界変更	△0.02	87.76
昭和47年(1972年) 10月 1日	北袖地先公有水面埋立地編入	1.25	89.01
昭和48年(1973年) 4月27日	中袖地先公有水面埋立地編入	2.64	91.65
昭和49年(1974年) 8月 2日	中袖地先公有水面埋立地編入	0.81	92.46
昭和50年(1975年) 2月 4日	北袖地先公有水面埋立地編入	0.15	92.61
昭和50年(1975年) 10月 3日	中袖地先公有水面埋立地編入	0.29	92.90
昭和51年(1976年) 4月30日	中袖地先公有水面埋立地編入	0.16	93.06
昭和53年(1978年) 5月16日	南袖地先公有水面埋立地編入	0.26	93.32
昭和53年(1978年) 7月11日	南袖地先公有水面埋立地編入	1.78	95.10
平成 元年(1989年)11月10日	建設省国土地理院の変更公表	△0.20	94.90
平成 5年(1993年) 6月 1日	木更津市との境界変更	—	94.90
平成 5年(1993年)10月 1日	建設省国土地理院の変更公表	0.02	94.92
平成13年(2001年) 4月 1日	木更津市との境界変更	—	94.92
平成15年(2003年) 3月25日	木更津市との境界変更	—	94.92
平成26年(2014年)10月 1日	国土交通省国土地理院の変更公表	0.01	94.93

資料：袖ヶ浦市統計書

●袖ヶ浦市の合併経緯



4. 人口及び世帯数

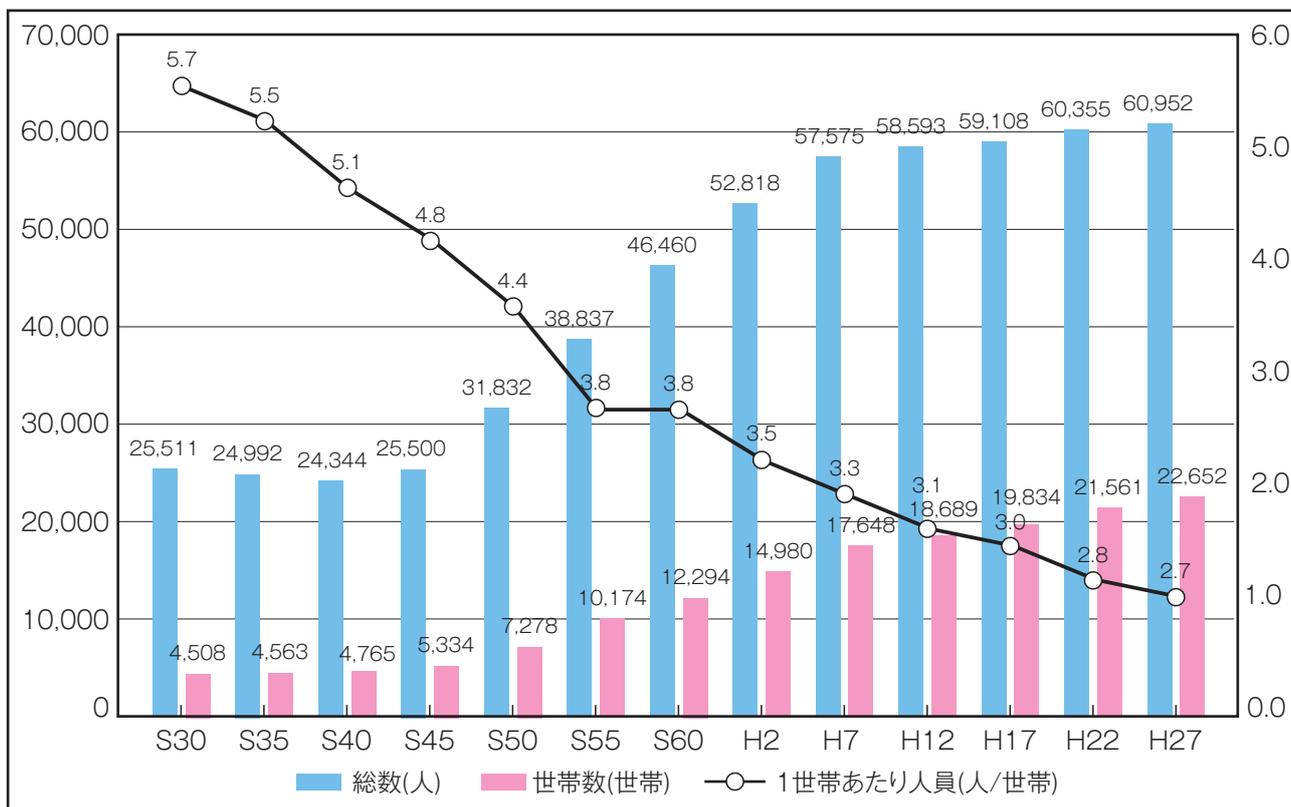
昭和40年代の臨海部への企業進出と、昭和50年代の住宅地の整備により都市化が進み、人口の急増がありました。近年は少子高齢化の進行からその伸びは鈍化し、微増の傾向にあります。また、世帯数については増加しているものの、1世帯あたりの人員は年々減少しています。

●人口及び世帯数の推移

(単位：人)

年次	総数	男	女	世帯数	1世帯あたり人員	備考
昭和30年(1955年)	25,511	12,343	13,168	4,508	5.7	第8回国勢調査
昭和35年(1960年)	24,992	12,173	12,819	4,563	5.5	第9回国勢調査
昭和40年(1965年)	24,344	11,913	12,431	4,765	5.1	第10回国勢調査
昭和45年(1970年)	25,500	12,708	12,792	5,334	4.8	第11回国勢調査
昭和50年(1975年)	31,832	16,104	15,728	7,278	4.4	第12回国勢調査
昭和55年(1980年)	38,837	19,690	19,147	10,174	3.8	第13回国勢調査
昭和60年(1985年)	46,460	23,510	22,950	12,294	3.8	第14回国勢調査
平成 2年(1990年)	52,818	26,775	26,043	14,980	3.5	第15回国勢調査
平成 7年(1995年)	57,575	29,231	28,344	17,648	3.3	第16回国勢調査
平成12年(2000年)	58,593	29,412	29,181	18,689	3.1	第17回国勢調査
平成17年(2005年)	59,108	29,728	29,380	19,834	3.0	第18回国勢調査
平成22年(2010年)	60,355	30,502	29,853	21,561	2.8	第19回国勢調査
平成27年(2015年)	60,952	30,660	30,292	22,652	2.7	第20回国勢調査

資料：国勢調査



5. 産業別人口

袖ヶ浦市の産業は、かつて海苔養殖を主とした漁業と稲作を主とした農業が中心でしたが、昭和40年代の臨海部埋立てによる企業進出により、就業人口の増加及び産業構造の変化に伴って就業構造も大きく変化しました。

●産業別就業人口

(単位：人)

年次	就業人口	第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能
昭和30年(1955年)	12,852	10,562	509	1,781	
昭和35年(1960年)	12,981	10,171	749	2,061	
昭和40年(1965年)	12,766	8,926	1,125	2,715	
昭和45年(1970年)	13,802	7,576	2,335	3,891	
昭和50年(1975年)	15,223	4,881	4,038	6,246	58
昭和55年(1980年)	18,350	4,218	5,457	8,656	19
昭和60年(1985年)	21,612	3,624	6,845	11,094	49
平成2年(1990年)	25,905	2,915	8,574	14,395	21
平成7年(1995年)	29,135	2,241	9,501	17,361	32
平成12年(2000年)	29,132	2,045	9,252	17,688	147
平成17年(2005年)	29,314	1,934	8,741	18,272	367
平成22年(2010年)	28,853	1,419	8,196	18,522	716
平成27年(2015年)	29,534	1,304	8,095	19,150	985

資料：国勢調査

